

安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

★ 安全リレー ★



青森県における安全・適正就業の取組み

1 青森県シルバー人材センター連合の概要（平成30年度実績）

(1) センター数	23 団体（国庫補助 13 団体、国庫補助対象外 10 団体）
(2) 会員数	6,748 人（男性 4,186 人、女性 2,562 人）
(3) 粗入会率	1.5%（男性 2.2%、女性 1.0%）
(4) 就業実人員	5,830 人（請負・委任 5,510 人、派遣 1,134 人）
(5) 就業率	86.4%（請負・委任 81.7%、派遣 42.7%）
(6) 就業延人員	613,141 人日（請負・委任 515,571 人日、派遣 97,570 人日）
(7) 受注件数	38,570 件（請負・委任 37,942 件、派遣 628 件）
(8) 契約金額	2,867,915 千円（請負・委任 2,337,036 千円、派遣 530,879 千円）

※ 実績は請負・委任事業及び派遣事業の合算値

2 青森県の過去5年間の事故発生状況

青森県内のシルバー人材センター事業実績及び事故発生状況は、下表のとおりとなっています。

年度	会員数(人)			就業 延人員 (人日)	傷害事故(件)					損害 賠償 事故 (件)
					うち重篤事故(件)					
	男性	女性	合計		就業中	途上	合計	就業中	途上	
26	4,350	2,708	7,058	636,401	29	10	39	1	0	38
27	4,314	2,681	6,995	608,766	25	8	33	0	0	25
28	4,280	2,630	6,910	616,991	30	3	33	0	0	27
29	4,239	2,589	6,828	628,213	28	6	34	0	0	43
30	4,186	2,562	6,748	613,141	34	4	38	2	0	34

※ 事故発生件数は年度内にシルバー保険の支払が完了したものの

3 連合会における安全・適正就業の取組み

当連合会では、次の事業に取り組むことで、県内各センター会員の安全かつ適正な就業等に関する事項を検討し、その対策を推進しています。

- (1) 安全・適正就業対策推進委員会の開催

- (2) 安全・適正就業推進強化月間の設定（7月）
- (3) 安全・適正就業パトロールの実施
- (4) 安全・適正就業に係る研修会等の開催
- (5) 適正就業ガイドラインに沿った事業運営の推進
- (6) 事故状況の収集とその分析、再発防止のフォローアップ、安全・適正就業に係る情報提供等

4 安全・適正就業の取組事例（トピックス）

(1) 蜂刺されによるアナフィラキシーショック抑止の取組み

【平成30年度第2回安全・適正就業対策推進委員会より】

① 県内では草刈作業や剪定作業が夏場に集中して行われています。

その中で、例年、蜂刺されによる事故が相当数発生しており、その中で平成30年7月、蜂刺されによるアナフィラキシーショックによる死亡事故が発生しました。

このことにより、同年10月に開催した安全・適正就業対策推進委員会で、蜂刺され等による事故防止を検討した中で、林業・木材製造業労働災害防止協会より講師を招き、講話を受けました。

【講話概要】

① アナフィラキシーショックとは

〔蜂毒によるアレルギー症状を発症し、意識障害等を引き起こし生命が危険な状態になること〕

② 危険な蜂の種類と食性、刺し方の違い等

③ 蜂に刺されないために

④ 蜂が攻撃してきたときの対処法

⑤ 刺されてからの処置

〔リムーバー（吸取器）で蜂毒を体外へ除去する。必要に応じて、自己注射剤活用（アナフィラキシー症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐための補助治療剤）する。〕

② 上記の講話を通じて、各委員から会員への伝達の他、類似事故防止のため、全センターへ次の事項について注意喚起を図りました。

ア 蜂に刺され、自覚症状を感じたらすぐに病院へ

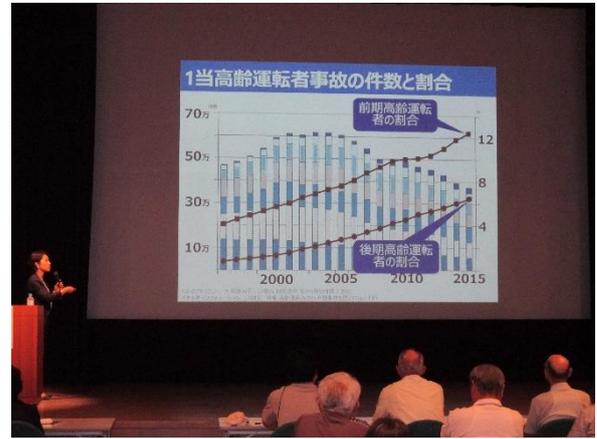
→ ただし、当該者1人で移動せず、必ず就業会員またはセンター職員が同行すること（当該者の運転は厳禁）。

イ アレルギー体質か否かの検査受診の励行

→ 草刈や剪定作業等においては、蜂と遭遇する機会が少なくないため、会員自身のアレルギー体質の有無を把握すること。

ウ 自己注射剤の携行と活用の励行

→ 蜂に刺されアレルギー反応が出たら、「エピペン（商品名）」と呼ばれる自己注射剤を活用し、病院での治療までの間、アナフィラキシー症状の進行の緩和に努めること。



②「草刈飛散事故の撲滅」では、「草刈飛散事故防止のために～原点回帰～」と題し、保護帽等安全装備の確実な装着と自己流ではない適正な機器の操作こそが最も事故発生リスクを減らせることや、シルバー人材センターというブランドを背負っているという誇りをもって働くことが心身ともに健康で安全な就業につながることをお話いただき、安全就業に向けての意識を新たにしました。



5 終わりに

連合会及びセンター役職員が、各種法令及び制度上の理解をより深めることで、会員の皆様が安全かつ安心して働くことができる就業環境を整備するとともに、会員一人ひとりの安全意識の啓発を徹底し、「事故の撲滅」を目指して引き続き安全・適正就業に注力して参ります。

青森県シルバー人材センター連合様からの報告でした。
詳細にわたるご報告、誠にありがとうございました。

令和元年度12月事故速報

(1) 重篤事故

12月は、4件の重篤事故報告がありました。

12月までの累計で比較してみると、平成30年度の27件と比して令和元年度は25件と2件減少しています。

なお、過去10年間において重篤事故件数が一番少なかった平成28年度(年間28件)の12月報告分の24件と比較して1件の増加となってしまいましたが、今年度の重篤事故件数が過去10年間の最少件数を更新できるよう、安全対策に取り組みましょう。

また、就業中・就業途上別にみると、就業中では平成30年度の19件と比して12件と7件の減少となっており、また就業途上においては、平成30年度の8件と比して13件と5件の増加となっています。

12月報告分までの累計

令和元年度 12月 度 累 計	就業中・ 就業途上	件数	内 訳				平成30年度同月累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	12(2)	8(1)	4(1)	11(2)	1(0)	就業中	19	15	4	18	1	
就業途上	13(2)	6(2)	7(0)	11(1)	2(1)	就業途上	8	7	1	7	1	
計	25(4)	14(3)	11(1)	22(3)	3(1)	計	27	22	5	25	2	

↳ 対前年度比 92.6% ()は、当月(12月)報告分です。

12月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全 帽	安全 帯	交通 手段
22	男 86 歳	就業中 (入院)	半地下自動車車庫に続く幅1m程度、高さ1.6m程の斜めスロープ左側の場所に樹木を植えており、その周辺での草取り作業中に足を滑らせて横転落下し、右側頭部を骨折したものと推測される。入院後6カ月経過したが現在も入院中である。	—	—	—
23	女 73 歳	就業途上 (死亡)	就業後に帰宅のためにバス停に向かおうと就業先前の道路を横断したところ、右側から来た乗用車にはねられ頭部を強打し、病院に救急搬送されたが当日死亡した。原因は、横断歩道のない道路を横断したため。	—	—	徒歩
24	男 74 歳	就業中 (死亡)	米菓生地収納袋満杯時の取換え作業中、水を飲みに行った際、常時使用している給水機が数日前から故障しているため、その近くにある蛇口から水を飲んでいて、その蛇口の近くに原料等を上げ降ろしするリフトがあり、本人が水を飲んでいる時に2階にいた工場職員がリフトの下降スイッチを押した。その社員が1階へ降りてみると、リフトの下敷きとなっている本人を発見した。病院に救急搬送されたが約1か月後に死亡した。	—	—	—
25	男 76 歳	就業途上 (死亡)	横断歩道歩行者信号が赤であり、自動車用信号が青である状態で、被害者が駆け足で横断歩道の端を渡ろうとしていたところに、自動車が、それに気付かず接触した。自動車を運転していた者の呼気にアルコールが含まれていることが確認されており、時間が早朝で薄暗かったことも重なり、通行中の被害者に気付かなかったのではないかとと思われる。	—	—	徒歩

(2) 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

12月は、就業中の事故31件、就業途上の事故8件と、合計39件であり、昨年度同月の19件と比して20件の増加となっています。また、男女別では、男性は17件の増加となっており、女性は3件の増加となっています。

12月までの累計で比較してみると、昨年度の218件と比して、本年度は205件と13件の減少となっています。就業中・就業途上別にみると、就業中は1件の減少となっており、就業途上も12件の減少となっています。男女別では、男性は1件の減少となっており、女性も12件の減少となっています。

令和元年度12月分

	仕事の内容	事故数(件)		男性(件)		女性(件)		平均年齢(歳)	
		12月	累計	12月	累計	12月	累計	12月	累計
就業中	植木・樹木の剪定等	11(7)	62(57)	11(7)	61(56)	0(0)	1(1)	75	74
	除草作業	7(2)	25(32)	6(2)	18(25)	1(0)	7(7)	75	75
	屋内・屋外清掃作業	3(3)	30(22)	1(0)	14(10)	2(3)	16(12)	70	75
	その他	10(3)	36(37)	7(2)	24(24)	3(1)	12(13)	78	76
	計	31(15)	153(148)	25(11)	117(115)	6(4)	36(33)	76	75
就業途上	徒歩	3(1)	14(19)	0(0)	4(5)	3(1)	10(14)	82	78
	自転車	3(1)	26(30)	3(0)	13(11)	0(1)	13(19)	75	76
	バイク	2(1)	9(14)	1(0)	2(5)	1(1)	7(9)	75	73
	自動車	0(1)	3(7)	0(1)	2(3)	0(0)	1(4)	—	76
	計	8(4)	52(70)	4(1)	21(24)	4(3)	31(46)	77	76
合計		39(19)	205(218)	29(12)	138(139)	10(7)	67(79)	76	75

()は平成30年度同月、累計では同月までの発生件数

「シルバー人材センター団体傷害保険に係る事故件数等報告書」については、事故の有無にかかわらず毎月8日までに必ず提出願います。

(平成30年4月24日付 事務局長通達により通知済)

(3) シルバー派遣事業における労働災害報告の事故（休業1ヶ月以上）

10月は、仕事の型別では「その他の清掃の職業」が3件、「軽作業員」が2件、「調理人」、「その他の居住施設・ビル等の管理の職業」、「他に分類されないサービスの職業」、「養畜作業員」、「配達員」、「他に分類されない運搬・清掃・包装等の職業」がそれぞれ1件あり、合計8件となっています。男女別の内訳は男性が9件、女性が2件となっています。

10月までの累計は66件となり、男女別の内訳は、男性が41件、女性が25件となっています。なお、死亡事故はありませんでした。

令和元年度10月分

	仕事の型（小分類）	小分類 コード	事故数（件）		男性（件）		女性（件）		平均年齢（歳）	
			10月	累計	10月	累計	10月	累計	10月	累計
業 務 災 害	測量技術士	93	0	2	0	2	0	0	-	65
	受付・案内事務員	254	0	1	0	1	0	0	-	71
	小売店販売員	323	0	2	0	0	0	2	-	74
	その他の家庭生活支援の職業	359	0	1	0	1	0	0	-	73
	調理人	391	1	5	0	0	1	5	-	66
	飲食物給仕係	403	0	4	0	0	0	4	-	74
	その他の居住施設・ビル等の 管理の職業	419	1	2	1	2	0	0	-	73
	他に分類されないサービスの 職業	429	1	3	0	0	1	3	64	66
	養畜作業員	462	1	1	1	1	0	0	72	72
	自動車組立設備制御・監視員	513	0	1	0	1	0	0	-	65
	弁当・惣菜類製造工	554	0	1	0	1	0	0	-	67
	木製品製材工	561	0	1	0	1	0	0	-	72
	一般機械器具修理工	601	0	1	0	1	0	0	-	75
	バス運転手	661	0	2	0	2	0	0	-	70
	内装工	717	0	1	0	1	0	0	-	78
	配達員	755	1	4	1	4	0	0	78	73
	荷造作業員	756	0	1	0	1	0	0	-	67
	ビル・建物清掃員	761	0	2	0	0	0	2	-	73
	ごみ収集・し尿汲取作業員	764	0	1	0	1	0	0	-	70
	産業廃棄物収集作業員	765	0	2	0	2	0	0	-	74
	その他の清掃の職業	769	3	5	3	4	0	1	72	72
	製品包装作業員	771	0	2	0	1	0	1	-	72
	選別作業員	781	0	7	0	4	0	3	-	71
	軽作業員	782	2	9	2	5	0	4	69	70
	他に分類されない運搬・清 掃・包装等の職業	789	1	5	1	5	0	0	69	70
	計	-	11	66	9	41	2	25	72	71

「シルバー派遣事業における労働者死傷病報告等に基づく労働災害報告」については、

(1)「派遣・業務災害報告」については、各月翌月最終稼働日までに、(2)「派遣・通勤災害報告」については、令和2年3月31日までの期間での発生分を令和2年4月30日までに必ず提出願います。(平成31年4月22日付 事務局長通達により通知済)

大寒となり、一年で一番寒い時期を迎えていますが、皆様、風邪は大丈夫ですか。今年は暖冬で雪不足のところも多く、いつもとは違う冬をお過ごしの方も多いことと思います。2年連続で増えた重篤事故ですが、今年度は、会議等のたびに注意喚起を行った結果、過去最低だった3年前の記録を更新できそうな勢いでしたが、ここに来て、また増加傾向になっています。事故を防ぐには、「安全はすべてに優先する」、「安全無くして就業なし」を合言葉に、「自分の安全は、自分で守る」という意識啓発が何より重要です。事故は「自分には関係ない」、「自分のセンターには関係ない」と思われている方はいらっしゃいませんか。自分には関係ないと過信することなく、誰にでも起こりうることととらえて、細心の注意を払い、みなさま、事故に遭うことがないように、年度末に向けて気を引き締めて参りましょう。(松山)

昨年から続く高温傾向の影響で、雪の降る量が平年よりかなり少ない状態となっています。そのため1月8日現在において、全国のスキー場のうち約3分の1のスキー場は未だオープンできていない状態とのニュースを見ました。しかしながら、冬の時期は、地域によっては除雪関係の作業があり、滑って転倒して地面に頭を打つ、または骨折する事故が増えることが予想されますので、除雪作業をするに当たり、安全帽の着用及び雪道用靴の着用、さらに作業を複数人で行うなどの作業の安全対策を十分にしてください。また、就業途上においても雪道で転ばないように注意してください。(笹野)

事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな

<頒布物のご案内> 新規会員さんへの研修に活用ください!

全シ協では、シルバー人材センター事業を円滑に運営・推進していただく一助として、手引書、冊子などの頒布物を発行しています。

事故に学ぶ交通安全のポイント「改訂版」

交通事故の死亡者は年々減少傾向にある中、65歳以上の高齢者が占める割合は年々高くなっています。シルバー人材センター会員の皆様においても就業途上において歩行中・自転車乗車中の事故が多く発生しています。このため、事故に注意していただき、安全な就業をしていただくため改訂版を発行しました。是非、会員の皆様に対する研修会・講習会等のテキストとして活用ください。



頒布価格 200 円 A4 判
(税抜・送料実費)

【改訂の内容】

- 1 現行のB5版/16頁からA4版/20頁とし、見やすく、分かりやすく、内容の充実を図りました。
- 2 警察庁交通局の「平成27年中の交通事故の発生状況」から、特に、高齢者の事故が多い内容や原因について注意喚起を行う事項を追加しました。
- 3 シルバー人材センターで発生した「就業途上に起きた交通事故」の状況や事故件数及びこれに伴う再発防止のポイントを「イラスト、事例」により掲載しました。
また、ヒヤリ・ハットの事例についても、「イラスト、事例」により掲載しています。
- 4 自転車の危険運転について、道路交通法の改正が行われ、この改正内容等について、「イラスト」等により解説を行い、追加しました。

【お問い合わせ先 全シ協企画情報課 TEL 03-5665-8013】